

| 出題分析  |             |              |             |
|---|-------------|--------------|-------------|
| 試験時間  | 75 分        | 配点           | 150 点       |
|   |             | 大問数          | 3 題         |
| 分量 (昨年比較)   | [減少 同程度 増加] | 難易度変化 (昨年比較) | [易化 同程度 難化] |
| <p><b>【概評】</b></p> <p>例年通り大問 3 つで構成されたが、設問数は増加した。出題形式については、昨年に比べて語句記述問題が大きく増加した一方、正誤判定問題は大きく減少した。年代判定問題は昨年とほぼ同数であった。また、地図を用いた出題が複数みられた点が特徴的であった。昨年に続いてヨーロッパやアメリカからの出題が多かったが、戦後史に関する出題は減少した。漢字用語を含めた語句記述問題が大きく増加し、昨年はなかった地図問題が扱われたことを考慮すると、全体的な難易度は昨年よりやや難化したといえる。</p> |             |              |             |

| 設問別講評 |                   |  |     |
|-------|-------------------|--|-----|
| 問題    | 出題分野・テーマ          | 設問内容・解答のポイント   | 難易度 |
| I     | ヨーロッパ史<br>(中世～近代) | 設問 1・設問 2：問われたのは基本事項であるため、いずれも確実に得点したい。設問 3. (i) - イ：ハンガリー王国は、ドナウ川流域のパンノニア平原付近に建国された。(ii) - ウ：権利の請願ではなく権利の章典が正しい。権利の請願は、イギリス議会在が不当な課税や逮捕の停止を求めてチャールズ 1 世に提出した。設問 4. (B) - (b)：13 世紀末の「シチリアの晩禱 (晩鐘)」事件を機に、シチリア王国とナポリ王国は事実上分離した。                   | 標準  |
| II    | 中国史<br>(明代～清代)    | 設問 1. 正確な漢字表記ができたか否かで差がついたであろう。特に d は「2 文字」という指定があるため、誤って「万里の長城」と書かないように注意したい。設問 3. (B)：⑤と判断に迷った受験生が多かったであろう。設問 6. (1)：資料文中の「養蚕」がヒントとなる。(2)：やや難問。景德鎮は現在の江西省に位置する。(5)：やや難問。イギリスの毛織物工業でも用いられた経営形態。設問 8. (2) - (b)：ホンタイジ以降、清の皇帝はモンゴルの大ハーン の地位を継承した。 | やや難 |

| 設問別講評 |                   |  |    |
|-------|-------------------|--|----|
| Ⅲ     | 南北アメリカ大陸史<br>(近代) | 設問 1. (f) : スタンダード石油会社などにみられる企業合同をトラストという。なお、カルテルは同一産業の複数企業が価格協定を結ぶ企業連合であり、コンツェルンは異種企業が同一資本下に入る企業形態を指す。設問 2. (A) - (a) : 憲法制定会議が開催されたのはペンシルヴェニア植民地のフィラデルフィアである。フィラデルフィアは第 1 回大陸会議の開催、独立宣言の発表などアメリカ合衆国の建国史において重要な都市である。設問 3. ①- (b) : 難問。1822 年にブラジル帝国として独立したのち、1889 年に共和政に移行した。②- (a) : ダーウィンが『種の起源』を発表して進化論を唱えたのは 1859 年である。この年号がわからなくても、19 世紀末の人種主義の広まりが、進化論の概念を人間社会に応用した社会進化論が思想的な背景にあったということを想起できれば、『種の起源』の発表が 1898 年より前の出来事であると推察できる。 | 標準 |

#### 合格のための学習法

同志社大学の入試世界史は、標準レベルの知識で解答できる設問が比較的多く、極端な難問は少ない。例年、文化史関連の出題が目立つ傾向にあるため、過去問や資料集等を用いた対策を万全にしたい。今年の本日程では語句記述問題が大きく増加した。今後も同様の形式が続く可能性もあるため、特に漢字用語については正確に書く練習をしておきたい。例年、同志社大学は入試講評で受験生のカタカナ表記についても注意喚起を行っている。判別できない字は誤答とみなす可能性も示唆しているため、油断しないようにしたい。また、今後も地図問題の出題が続く可能性があるため、関西大学など地図問題を出題する入試世界史の過去問を活用して対策することが望ましい。